

土づくり特集 ~臨時号~

令和5年10月13日
黒東地域農業技術者協議会

R5年産のコシヒカリは、登熟期間が高温で推移した影響から白未熟が発生、品質が大幅に低下しています。「暑さに負けない稲づくり」への再出発、今一度土づくりを見直してみましょう。

1. 見直そう！土壤養分

~特に有効態ケイ酸分が足りない！~

R4年度土壤診断の結果、土壤中のケイ酸濃度が、米の品質を確保できる目標値に達しているほ場はありませんでした。**土づくり資材は、継続して散布**しましょう。

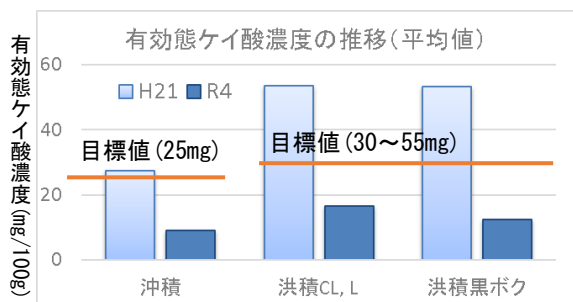


図 JAみな穂管内土壤分析結果 (H21とR4比較)
注) 目標値は、茎葉ケイ酸濃度10%となる目安

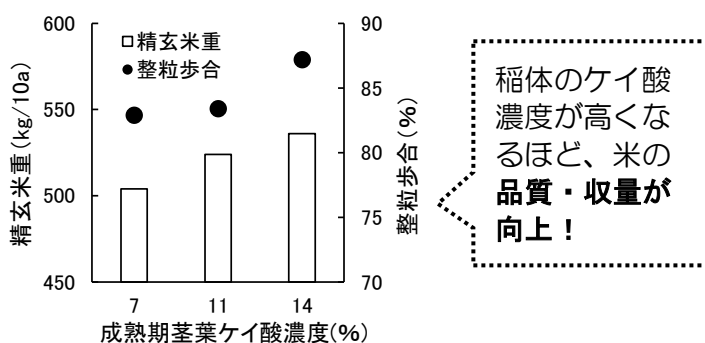


図 茎葉ケイ酸濃度と精玄米重及び整粒歩合の関係
注) H21年 農業研究所

稲体のケイ酸濃度が高くなるほど、米の品質・収量が向上!

ケイ酸質等土づくり資材標準施用量 (①・②・③より選択) ※洪積地帯 (山手)

①	「シリカパンチF」 120kg/10a
②	「珪酸石灰」 160kg/10a と 「苦土重焼燐」 20(40※)kg/10a
③	「アサヒニューテツ」 160 kg/10a と 「苦土重焼燐」 20(40※)kg/10a

おすすめ有機質資材(秋施用)

- 牛ふん堆肥(1~2 t/10a)
- 発酵ケイフン(150kg/10a)

秋散布で稲わら等の腐熟が促進!

2. 見直そう！秋耕し

~本年はヒコバエ・雑草対策にも!~

収穫後も高温でヒコバエが伸び、出穂結実すれば、次年度の漏生稲となる他、越冬鳥獣(イノシシ、鹿、サル、カラスなど)の生存を高める冬の餌となります。

▷できるだけ**気温が高い10月下旬までに秋耕し**、稲わら、茎葉、籾殻をすき込みましょう。

▷秋耕後は、田植え後の田ワキを抑えるため、腐熟が進むよう、**排水溝の設置と排水口への連結を行い、ほ場を乾かし**ましょう。

